

所沢おおぞら特別支援学校の活性化・特色化方針
(令和4年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害 肢体不自由	学部・ 学科	小学部 中学部 高等部	児童 生徒数	(男)203 (女) 99	計 3 0 2
ホームページ	https://oozora-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	JR 武蔵野線 東所沢駅から ○ところバス 東路線（柳瀬循環コース）左回り 『やなせ荘入口』下車 徒歩7分（約0.4km） ○西武バス「エステシティ所沢」行き 『やなせ荘入口』下車 徒歩7分（約0.4km） 西武新宿線 航空公園駅から ○ところバス 東路線（柳瀬循環コース）右・左回り 『やなせ荘入口』下車 徒歩7分（約0.4km） 東武東上線 みずほ台駅から ○ライフバス みずほ台駅西口（上富三芳町役場経由）鶴瀬駅西口折り返し線『竹下工業前』下車 徒歩22分（約1.5km）					
教育課程等 の特徴	本校では、小学部・中学部・高等部の12年間の系統性を大切にし、児童生徒一人一人の特性と実態に合わせた指導を行っています。 【肢体不自由・知的障害共通】 ・外部専門家（臨床心理士、言語聴覚士、理学療法士等）との連携による、教員のスキルアップ ・新学習指導要領に基づいた教育課程の編成に向けた検討 【肢体不自由教育部門】 ・個に応じた指導と、県教育委員会の体制整備事業に基づく医療的ケアの充実 【知的障害教育部門】 ・小学部・中学部における個に応じた学習の充実（国語、算数・数学、自立活動） ・高等部における教育課程の複数化（3つのコース設定）作業学習（社会のニーズに配慮した作業種の設定）家庭（卒業後の生活に結びつく指導内容の設定）や産業現場等における実習（個々の進路希望に即した実習方法の工夫）の充実					
特色ある 学校行事や 部活動	・県の陸上競技大会には選抜で選手が出場している。 ・全校一丸となって文化祭に取り組んでいる。 ・宿泊学習や社会体験学習などを通して、経験領域の拡大を目指している。					
家庭・地域 との連携	・学校公開を年3回実施。 ・近隣の小・中・高校との交流及び共同学習。 ・柳瀬地区文化祭に参加し、作品を展示。 ・高等部は公民館での清掃活動を実施。					
進路に ついて	令和3年3月卒業生の進路について 高等部卒業生31名（内訳：企業就労4名 福祉的就労26名） 例年、企業就労は2割前後、施設などへの福祉的就労が7割前後となっている。 【企業就労】 スーパー・小売・レストラン厨房・製造・加工（食品、紙製品、構内清掃等）、事務軽作業、物流（倉庫作業等）・介護施設・病院（清掃、厨房等）、クリーニング、清掃、農作業など 【福祉的就労】 所沢市、志木市、新座市、ふじみ野市、富士見市、三芳町等の福祉事業所を利用（就労移行支援、就労継続支援A・B型、生活介護など） 小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部へ進学している。					

（生徒数：R3.5.1現在、進路はR3.3月卒業生の実績値）

所 沢 お お ぞ ら 特 別 支 援 学 校

学 校 教 育 目 標

のびのびと きずな深めて たくましく

- のびのびと** 一人一人の主体的な学びを大切にし、自分らしさを発揮して意欲的に明るく元気よく生き生きと生活する力を育てる。
- きずな深めて** 周囲の多くの人とのかかわりを深めてコミュニケーション能力を高め、心豊かに生活する力を育てる。
- たくましく** 健やかな心と身体を育成し、社会の中で自立的に生活できる力を育てる。

目 指 す 学 校 像

社会の中で自立的に生活できる力を育む学校

学校経営方針

- 1 登校すること、勉強することが楽しくなる学校
- 2 保護者との連携を大切にする学校
- 3 地域社会との信頼関係の厚い開かれた学校
- 4 安心安全な学校
- 5 教職員がお互いの良さを認め合い、チームとして力を発揮する学校

教育基本方針（重点項目）

児童生徒一人一人の実態に即した継続的・発展的なきめ細かな指導を行う。

- 1 個別的な指導の充実
（自立活動の充実）
- 2 キャリア教育の推進

令 和 3 年 度

重 点 目 標

- （1）新学習指導要領の理念を踏まえた、児童生徒一人一人が主体的に取り組む授業づくり
- （2）共生社会を推進するための関係諸機関との連携強化
- （3）教職員がお互いの良さを認め合い、チームとして力を発揮する職場づくり

小 学 部

知 的

- ・6年間の系統的な学びを意識して研究グループを構成し、「授業改善シート」などを用いて、「主体的・対話的で深い学び」につなげる。
- ・タブレット端末の利用ルールを学んだ上で、ICT機器に触れる機会を増やしていく。また、教員間でICT機器の活用についての実践例や課題を共有していく。
- ・交流及び共同学習において、双方の児童が一緒に活動し、楽しい時間を共有する。

肢 体

- ・児童一人一人が好きなことを中心とした経験を重ね、「もっとやってみたい」と思い、取り組めるよう主体性を高める授業を実践する。
- ・リモート授業を取り入れたり、児童がタブレット端末に触れてみたりする経験等を積み重ね、ICT機器が身近なものに感じられるようにする。
- ・保護者、医療機関、療育機関との連携を図ることで、個々に合った健康維持のための学習環境を整える。

中 学 部

知 的

- ・評価の観点を踏まえた「授業の振り返り用紙」を保護者と共有し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業作りに活かす。
- ・実態に合わせた「タブレット端末の使い方」を指導し、社会で必要な、生活に活かすことのできる力を身に付けるようにする。
- ・近隣の中学校との交流及び共同学習の中で、双方の生徒が一緒に運営し、お互いが理解できるようにする。

肢 体

- ・日々生徒個々についての学習評価を行い、「できること」「伝えること」が増えるように実態に応じた授業を実践する。
- ・授業等で視認入力装置等のICT機器を使用する等、個々に合ったコミュニケーションツールの構築を進める。
- ・高等部へ向けて、生徒一人一人が持っている良さを発掘することができるように、保護者や外部関係機関と連携を図る。

高 等 部

知 的

- ・各教科や作業学習等で実態に応じた授業を行うとともに、ICT機器を効果的に活用し、生徒が主体的に取り組む授業づくりを行う。
- ・外部講師や社会資源を活用したり、作業製品や生徒作品を発表する機会を設定したりして、生徒と地域とのつながりを深める。
- ・各企業・事業所と連携して産業現場等における実習を設定するとともに、生徒個々の実情や願いなどを各支援機関と情報共有し、卒業後にも繋がる支援体制づくりを行う。

肢 体

- ・自信をもって表現することができるように、自己選択、自己決定を積み重ね、生徒が主体的に取り組める学習活動を実施する。
- ・意思伝達するためのACCアプリや、理解を深めるための視覚アプリを活用するなど、実態に応じた学習環境を整える。
- ・卒業後の生活の土台を作るために、保護者、医療、福祉等の関係機関との連携を図る。

- ・感染症予防や熱中症対策などに取り組み、生徒が安心して生活できる環境を提供する。
- ・専門的な知識、豊富な経験、若い力など、教員一人一人の良さを発揮できる環境を構築する。
- ・スクラップ＆ビルドの視点で業務の精選を図り、働き方改革を進め、働きやすい職場にする。